



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>新年あけましておめでとうございます。冬の寒風が身に染みる時期となりました。只見町ブナセンターでは、2025年も只見の自然を守りながら地域の活性化に結び付けられるよう活動すると共に、様々なイベントを企画して参ります。今年も皆様のご来館・ご参加をお待ちしております。

==== 開催案内 =====

【企画展】

「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

一昨年企画展「ブナを極めるⅠ」では、地史的なブナ林の広がりや移り変わりから、種としてのブナの生態、さらにブナ林に依存する多様な生き物まで幅広く解説しました。

続編としての本企画展では、ブナ林の木材や燃料としての使われ方を中心に、雪国の暮らしと文化の礎となってきた姿を振り返るとともに、現代の生活にブナ林の樹木を活かす取り組みについて解説します。

次のとおり開催いたしますので、お誘いあわせの上ぜひご見学ください。

■会期 2024/11/9(土)~2025/6/30(月)

■会場 ただみ・ブナと川のミュージアム 2階 ギャラリー



【自然観察会】

	豪雪のブナ林観察会
開催日時	2025年2月15日(土) 9:30~12:00
観察地	余名沢の森
集合場所	季の郷 湯ら里 駐車場 (只見町長浜上平50 深沢温泉)
定員	20名 [要事前申込、締切日 2/14(金)]
参加費	高校生以上 400円、小・中学生 300円、町内在住の小・中学生、高校生 100円
持ち物	防寒具上下、長靴あるいはトレッキングシューズ+スパッツ 帽子、手袋、スノーシューまたはかんじき(貸出可)

参加を希望される方は只見町ブナセンター(0241-72-8355)までお申し込みください。

【調査・研究】

次のとおり開催いたしますので、お誘いあわせの上ご参加ください。事前申し込みは不要です。

令和6年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業 成果発表会	
開催日時	2025年1月26日(日) 13:00~
会場	只見公民館 集会室
参加費	無料

==== 活動報告 ====

【ユネスコエコパーク特別セミナー】

「ブナ林のマストは何?-遺食住から観る生きもののつながり-」 10月13日

10月13日(日)、新潟大学名誉教授の箕口秀夫博士を講師にお招きし、只見ユネスコエコパーク特別セミナー「ブナ林のマストは何?-遺食住から観る生きもののつながり-」を、只見公民館1階集会室で開催しました。会場には21名の方が聴講にいられました。



▲講師の箕口秀夫博士

タイトルにもあるブナなどの木の实「マスト」や、樹木の種子や結実状況が広範囲にわたって同調し、数年おきに豊作になる現象や年を指す「マスティング」などの用語の説明から始まり、それらが森林と野生動物の相互関係にどのように関わっているかを解説していただきました。箕口博士の研究テーマである、森林生態系における野ネズミの役割や、森林と野生動物の関係、ツキノワグマによるクマ騒動についての話題も分かりやすくお話していただきました。

【自然観察会】

秋のブナ林観察会「どんぐりが実り、移動する秋を楽しむ」 10月14日

10月14日(月・祝)、秋のブナ林観察会「どんぐりが実り、移動する秋を楽しむ」が布沢・癒しの森にて行われ、23名が参加しました。また、今回の観察会には前日の10月13日に只見公民館にて講演を行われた箕口秀夫博士(新潟大学名誉教授)に講師として同行していただきました。



許可を受けたネズミトラップ17個を前日に仕掛けており、ネズミを観察できることを期待しながら全てのトラップを確認しましたが、今回は残念ながらネズミを捕まえられませんでした。ネズミを直接見ることは叶いませんでしたが、ブナ林に生息する多くの動物について箕口博士に解説いただき、森林と動物たちの関わりについて学ぶことができました。

【講座】

「マタギの里でしな布を織る」開催報告 11月30日

11月30日(土)、現代美術家・しな布作家である大滝ジュンコさんを講師にお迎えし、ただみ・ブナと川のミュージアムにて講座を開催しました。参加者は20名でした。

大滝さんは新潟県村上市の山熊田集落に暮らし、自らブナ林に生育するシナノキの皮を使って、日本最古の織物であるしな布を作られています。新潟県村上市と山形県鶴岡市の県境付近で作られるしな布は特に「羽越しな布」として有名で、経済産業省の伝統的工芸品に認定されています。現在は着物帯などの高級嗜好品として流通していますが、昔は道具として使われていたそうです。

講座では、大滝さんが9年前に山熊田に移住し、滅びる寸前のしな布の技術を引き継ぐことになった経緯や、採集・狩猟など山を利用する暮らしが未だ色濃く残る山熊田集落の伝統的な文化などについて教えていただきました。

また、しな布について、原料となるシナノキの種類や、皮の採集、灰汁と熱を利用した内樹皮の取り出し方、糸績みと呼ばれるしな糸を製作して織り上げるまでの一連の工程を解説いただき、卓越した技の連続に聴講された皆さんからは感嘆の声があがりました。

その他、伝統的なものづくり業界では全国共通の課題ともなっている後継者不足や、採算性の問題、技術継承と移住との兼ね合いなどについて独自の経験から解説されました。

大滝さんは最後に、ライフスタイルも変化し時代の過渡期にある現代においても、ネットでは伝わらない生の技術があり、失われたら取り戻せない貴重な技術を未来につなげるためには今が正念場であるというお話をされ、会場からは拍手が送られました。



【只見こども芸術計画】

「ブナの森の大きな地図と小さな地図」ワークショップ開催報告 11月10日・17日

11月10日(日)、只見こども芸術計画「ブナの森の大きな地図と小さな地図」の第1回目を開催しました。講師には昨年引き続きアーティストの岩田とも子さんをお迎えし、町内の17名の方にご参加いただきました。

今年のワークショップのテーマは、「ブナの森の大きな地図と小さな地図」。ブナの森を歩きながら見つけた葉っぱや枝、木の実などを観察して、それらを使った地図を作ったり、葉っぱなどの模様をよく観察して隠されている地図を探します。この日は、「大きな地図を作る」ワークショップでした。



▲五感で自然を感じました

まず、ブナ林にある葉っぱや枝、木の実などを採集して地図を作るため、檜戸集落にあるブナ二次林で散策を行いました。自然物を採集する中で、見る、聞く、匂いを嗅ぐ、触る、食べるなど五感を通して自然を感じてもらいました。

会場をただみ・ブナと川のミュージアムに移し、ブナの森で採集してきた葉っぱ、枝、木の実などを、道具を使わずに手で折ったり、ちぎったりして森の地図を作りました。自分の手だけを使うという条件でしたが、参加者はみなそれぞれ工夫して、岩田さんの教えた手法以外の方法も使って地図を作っていました。最後にできた地図をそれぞれ説明してもらいました。岩田さんが優しく、上手に子どもたちから話を聞き出してくれました。

ブナの森では五感を使って自然を体験し、創作では想像力豊かに作品を作ることができたワークショップでした。

11月17日(日)の第二回目には、町内の17名の方にご参加いただきました。

前は“大きな地図を作る”ワークショップを行いました。今回は“小さな地図を作る”ワークショップでした。観察の会場は前回同様に檜戸集落のブナ二次林の観察の森でした。

観察では厚紙で作ったフレームが渡され、フレームを使って森の中の葉っぱや枝、石などの模様などをよく観察し、その中に隠された小さな地図を探しました。例えば、葉脈が地図のように見えたりします。

気に入った地図が見えた葉っぱなどは、持ち帰り、ただみ・ブナと川のミュージアムで創作に使いました。葉っぱなどを見ながら、画用紙に色鉛筆で地図を描きます。虫眼鏡で細かく観察したり、ペンライトで明るくしたり、陰影が地図のように見えないか実験もしたりします。地図が描いたら、トレーシングペーパーを重ねて鉛筆で地図の説明を書き込みます。

最後に作品の発表を行いました。ある子が地図を説明してくれる中で、別の子が「私もここに行ってみよう!」と言ってくれました。これに岩田さんは、「それって地図の本質的なことかもしれないね」と反応。子供達の素直な感想にはっとさせられました。

今回のワークショップでは小さなフレームを使ってもらい、森の細部を観察してもらいました。また、その細部から見えてきた小さな地図を想像して描き、自分ではない誰かに伝えることができました。今後、只見町のどこかで2回のワークショップで完成した作品を展示する予定です。詳細はブナセンターのホームページなどでお知らせいたします。



▲自然物を使って大きな地図を作りました



▲フレームで森の細部を観察しました



▲自然に隠れた小さな地図を描きました

【只見町ブナセンター運営委員会】

現地視察の開催報告 11月20日

ブナセンターの活動現場を視察いただくことで、より良い運営への意見を頂戴するため、只見町ブナセンター運営委員会の現地視察を開催しました。

始めに、只見町が取得し、観察の森として指定・整備した余名沢のブナ林を訪れ、昨年開催した只見子ども芸術計画の作品展示を見ていただきました。次いで、黒谷地区に整備した「豪雪林業体験・観察の森」を視察し、只見町における人工林の実態と調査研究の成果から考えられる今後の人工林管理の方向性について確認が行われました。最後に、ふるさと館田子倉にて、「『自然首都・只見』伝承産品」事業の取組の説明とふるさと館田子倉の見学を行いました。



視察後は、今年度事業の説明と意見交換が行われました。

■意見交換にて、主に下記のような意見をいただきました。

- ・今回初めて実際の事業現場を見る機会を得たことで、只見ユネスコエコパークの活動を具体的に知ることが出来たのは有意義だった。
- ・ふるさと館田子倉の伝承産品展示・販売については、ユネスコエコパークを推進するために極めて効果的な取り組みであり、そのPRに務めるべきである。
- ・国道289号八十里越の開設工事および滝ダムの浚渫土砂問題の現場を見る機会を持てなかったのは残念。次回は実現してほしい。

===== お 知 ら せ =====

只見ユネスコエコパーク登録10周年記念映画上映会・記念式典の開催 11月4日

季の郷湯ら里にて、只見ユネスコエコパーク10周年記念映画上映会・記念式典が開催されました。およそ150名の方が参加されました。

映画上映会では、民族文化映像研究所が製作した「越後奥三面-山に生かされた日々」^{えちごおくみおもて}を上映しました。現在はダム湖底に沈んだ新潟県朝日村奥三面集落の山猟、川猟、採草など山村の日常の生活文化を記録したドキュメンタリー映画で、只見町と同じ豪雪の山村にある暮らしは、只見町のそれと非常によく似ていました。



記念式典では、渡部勇夫町長が「登録から10年、この間の取り組みに対してご支援・ご協力を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。ユネスコエコパークはまちづくりの根幹。取り組みを加速させ

ていきたい。引き続き、多くの皆様のご指導・ご協力をお願いします。」と挨拶されました。また、ユネスコエコパーク推進系の担当者から 10 年間のユネスコエコパーク関連事業の活動を報告しました。

最後に、渡部町長が生物多様性を回復軌道に乗せる国際目標「ネイチャーポジティブ」（“自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め、反転させる”の意）を宣言しました。この宣言を機に、只見町はネイチャーポジティブの実現を目指すとともに、人と自然が共に豊かに暮らすユネスコエコパークの地域づくりをより力強く進めていく予定です。



只見町ブナセンター 令和6年度行事一覧(予定)

企画展

会期	タイトル	会場
2024/11/9 (土) ~ 2025/6/30 (月)	「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」	ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

学術調査研究成果発表会

開催日	タイトル	会場
2025/1/26 (日)	令和6年度「自然首都・只見」 学術調査研究成果発表会	只見公民館 集会室

自然観察会

開催日	タイトル(観察地)	集合場所
2025/2/15(土)	豪雪のブナ林観察会(余名沢の森)	季の郷 湯ら里 駐車場

<編集後記> 松の内の賑わいも過ぎ、正月気分も抜ける頃となりました。山も町もすっかり雪化粧しております。ご来館の際は、寒さや雪道の対策を忘れないようお願いいたします。本年が皆さまにとってよき年になりますよう心より祈念申し上げます。(吉田)

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター



電話 0241(72)8355 ホームページ <https://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」

開館時間：9:00～17:00（最終受付 16:00）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）

入館料：高校生以上 310 円（20 人以上は団体割引）

小・中学生 210 円 只見町在住の小・中・高校生 無料